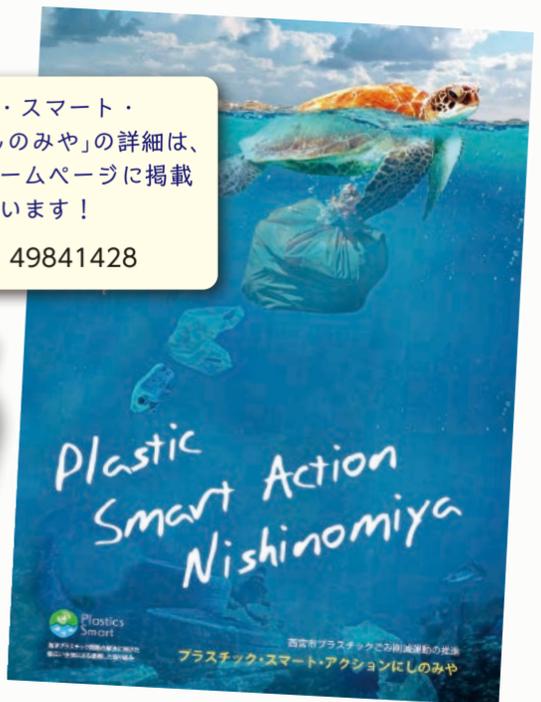


# 一人ひとりの取組でプラスチックごみの削減へ

## 「プラスチック・スマート・アクションにしのみや」策定

現在、プラスチックごみによる海洋汚染が世界的な問題となっています。そのため市は、市民・事業者・行政それぞれが主体となってプラスチックごみを削減していく取組の方針を策定しました。持続可能なまちづくりを進めていくため、使い捨てプラスチックはなるべく買わない・もらわないなど、少しずつ私たちのできることから始めていきましょう。

「プラスチック・スマート・アクションにしのみや」の詳細は、市ホームページに掲載しています！  
HP 49841428



### 基本方針

#### Reduce (リデュース)

マイボトル、マイバック、マイカップなどを使ってごみを減らしましょう



#### Reuse (リユース)

まだ使えるものは、人に譲るなど繰り返し使しましょう



#### Recycle (リサイクル)

プラスチック製品を捨てる時は適切に分別し、再資源化に努めましょう



#### No littering (ポイ捨て禁止)

ポイ捨てはやめて、まちを美しくしましょう



問 環境学習都市推進課 (0798・35・3479)

## 子育てに関するお悩みや困りごと、一緒に考えます！ / 子ども家庭総合支援拠点を開設

市は、18歳までの全ての子供とその家庭等を対象にさまざまな相談を受け付け、地域のサービスを紹介するなどの支援を実施する「子ども家庭総合支援拠点」を設置しました。

### 子育てに困っていませんか？ こどもも そうだん できるよ

- ・子育てがつらく感じる
- ・子供がいうことを聞かないなど
- ・じぶんばかりおこられる
- ・こんなことだれに そうだんしたらいいんだろう など



### ひとりで悩まずに、お気軽にご相談ください

#### 子ども家庭総合支援拠点

☎0798・35・3089、3749 ✉vo\_jidou@nishi.or.jp

〒662-8567 六湛寺町10-3市役所本庁舎7階(子供家庭支援課内)

【受付】月曜～金曜(祝・休日を除く)の午前9時～午後5時半



このほか、子育てに関する各種相談先を市のホームページで公開しています



オレンジリボンは児童虐待防止のシンボルです

HP 93814297

## 2/8から 西宮消防署 新庁舎で業務開始

西宮消防署は、2月8日から新庁舎に移転します。新庁舎は、大規模災害発生時にも消防活動拠点として業務を継続できるよう、基礎免震構造を採用し、非常用発電設備や自家給油施設などの機能を備えています。

### 【業務開始日時】

2月8日(火)午前9時～

### 【新庁舎の住所】

〒663-8241 津門大塚町1番32号

現庁舎の東隣です

### 【電話番号】

0798・23・0119 (変更なし)

### 【今後のスケジュール】

今回完成したのは消防庁舎棟です。今後、車庫・訓練棟の建設や旧庁舎の解体、敷地外構などの工事を引き続き実施します。全ての工事の終了は、11月末を予定しています



問 消防局企画課 (0798・32・7333)

## 多文化共生を考える

『人権文化の花咲くまち 西宮を目指して』 多様な視点から学ぼう！

問 秘書課 (0798・35・3459)

ある講演会の終盤、質疑応答の時間にその女性は会場内のある女性に感謝を伝えたいと立ち上がった。家庭の事情で来日したが、日本語が分からず、友人もできず悩んでいた。心ない態度や言葉を受けたこともあったそう。限界を感じていた時に出会ったのが、外国人向けに日本語学習の援助をしている団体だった。そこには彼女の様に日本語を必死に学ぶ外国人たちの姿があった。支援者の方々の誠実で温かい指導のもと、彼女の日本語は順調に上達していった。彼女がそこで手に入れたもので最も尊いものは、日本の中の自分の居場所と仲間だった。会場の壇上にいた支援者の日本人女性に、彼女は涙ながらに感謝の言葉を繰り返した。涙ながらの礼をもらった支援者の女性がどう感じるか皆が注目したが、一言も発しなかった。もらい涙があふれ、言葉がつまり、何も言えなかった。会場の人々が温かく見守る中、2人はただ泣き続けた。

### 漫画家・タレント 星野 ルネ さん

1984年カメルーン生まれ。4歳の時に母の結婚に伴い来日し、姫路市で育つ。タレント活動の傍ら、ツイッター上で発表していた自分の日常のエッセイ漫画が話題となり2018年8月に『まんが アフリカ少年が日本で育った結果』(毎日新聞出版)として出版。毎日小学生新聞にて「アフリカ少年! 毎日冒険」連載中



「情けは人のためならず」という日本のことわざがある。誰でも、自分一人の力ではどうにもならない状況に陥ることがある。そんな時に手を差し伸べてくれる人がいる地域なら、その地域で暮らす人は日本人でも、外国人でも、誰でもきっと大好きになる。そして次は自分が誰かを助けようと思える。バングラデシユの女性と、日本人支援者の間で流れた涙の川に希望と名前がかけられているようだった。



まうことはなかったかと。壇上にいた3人の支援者は口をそろえて答えるのだった。一方的に支援しているわけでもない。支援活動でふれあう中で、感謝の言葉をいただいたり、誰かの役に立てている充実感を得たり、自分の知らない世界のことを学んだりできる。色々なエネルギーをもらえるのだと。